

「広島に行つて」

明石 羽叶

私は、広島市平和記念式典児童派遣事業で  
広島県に行つてきました。そこで原爆のこと  
と平和の大切さを学んできました。

1日目、私は原爆の子の像を見に行きまし  
た。原爆の子の像のモデルは、2さいで被爆  
し6年生で白血病になり12さいで、七くなっ  
た佐々木偵子さんをモデルにしています。私  
は、原爆の子の像を実際に見て、原爆で七く

なっ方々へ、千羽づるがたくさんささげられ  
ていることを見て胸をうたれました。なぜな  
ら世界各国の入口が心をこめて折った千羽づ  
るがたくさんとどけられていると知ったから  
です。この千羽づるは、1年間に1千万羽も  
ささげられるのがイドさんから教えてもらい  
ました。資料館では、ボロボロになつた制服  
や丸こげになつた三輪車を見て心かいたみま  
した。原爆は物も人の命も心も全て無にする  
んだなと思いました。資料館には小1くらい

の女の子も見学しにきていました。その子はお母さんと原爆について話していて、あんなに小さな子でも原爆のことを学んでいて感心しました。こういう子が増えると平和へ近づくんのだなと思いました。

2日目、平和記念式典に参加して、多くの外国人も参加していることにおどろきました。いろいろな国の入々が平和に感心を持ち、広島に来てくれたかと思うと感動しました。私は、原爆ドームを見て言葉を失いました。な

ぜならあんなに大きな建物かた、た一発のばくだんでこわれたからです。原爆ドーム周辺に、原爆ドームの柱がふきとんでありました。柱がふきとぶほど、いりよくが強いんだと実感しました。きせきの原爆ドームがくずれなくてすんだとがイドさんから教えてもらいました。きせきが起きていて良かったです。もし、原爆ドームがくずれていたら世界に、原爆のいりよくときょうふを、伝えられていなか、たかもしれないと思っただからです。

私は、広島県へ行って原爆を二度と使われ  
てはいけないということ学びました。しか  
し、今世界には原爆を所持している国が9か  
国あります。なぜ原爆を作るのか、なぜ原爆  
を持つのか、広島市平和派遣事業に参加する  
まで、考えたことがありませんでした。これ  
から私は、原爆のひさんさや、平和の大切さ  
を、学校の友達に伝えて平和に興味をもつて  
もらいたいです。今回は、このような貴重な  
経験をさせていただきありがとうございます  
た。